



自然の解説者

春季号 [第 79 号] 2023 年 4 月 10 日

NPO 法人

ぐんま緑のインタープリター協会紙
事務局：〒371-0103 前橋市富士見町小暮
2425-28 櫻井昭寛方
電話・Fax 0274-42-2726
<http://inpuri.web.fc2.com/>
編集：総務企画部会

「NPO 法人奥利根自然センター」の紹介

NPO 法人奥利根自然センター事務局長 松井 孝夫

1. NPO 法人設立趣旨

利根川の源流域と尾瀬を含む『奥利根』といわれる地域には、個性的な自然林や湿原が広がっています。そこでは、自然保護や教育・啓発など自然を取り戻し、自然性を活かすいろいろな取り組みが行われています。我々は、そこで活動する方々の連携と情報交流、地域に住む方々やこの地域を訪れる方々との自然環境の価値の相互発見を通して、奥利根地域の自然保護と人と自然のつながりの再生、次代への継承を進め、地域と自然の持続性に資することを目的に活動しています。

2. 奥利根自然センターの歴史

1997 年開所。「尾瀬自然保護指導員養成講座」を開始し、自然解説活動の実施など、尾瀬での啓発活動に力を入れる。2006 年からは「自然生態に関する公開講座」を月例開催するなど、市民向けの啓発活動も実施。2009 年内海廣重所長の死去に伴い活動休止。2011 年奥利根自然センター再開委員会を発足。翌年からシンポジウム、フィールドワーク、セミナー等を毎年開催。2022 年センターの施設（書庫や周辺山林など）を活用・発展させるため、NPO 法人奥利根自然センターを設立。

3. 事業内容

- ①資料活用事業「資料の紹介（毎月）」、②啓発教育事業「奥利根シンポジウム（春）」「奥利根自然セミナー（秋）」、③調査研究事業「奥利根フィールドワーク（夏）」、④その他、自然保護に資する活動「生物多様性の保全活動（随時）」

4. 会員構成

活動に参加するサポーター会員（年会費無料）と企画運営に関わる正会員（年会費 1 万円）で構成されています。詳細については www.facebook.com/okutone.nc/ または okutone.nc@gmail.com までお問い合わせください。



校庭の樹木 24 ～神聖な樹木であったコウヤマキ～

顧問 亀井 健一

マキの名を持つ樹木が幾種かあるが、コウヤマキ（高野槇）はどんな特徴があるのだろうか。まずは和名の由来を探ってみると、真言密教の聖地である高野山に多く自生していることから付けられた和名です。マキは「真木」の意味です。本種の古い木が寺院にあるのは、古来より「霊力のある神聖な木」とされていたからです。高野山では仏壇などに供える仏花として使われているそうです。

本県では、高山村尻高の泉龍寺に昭和 29 年県指定天然記念物のコウヤマキがあり、また沼田市鍛冶町の正覚寺に昭和 51 年沼田市指定天然記念物のコウヤマキがあります。いずれも古木の風情があります。なお、低い位置にも枝が張り出し観察しやすいのは正覚寺のものです。了解を取れば境内に駐車可能です。天然記念物級のもの球果がつかますが、庭などにあるものはほとんど球果はつきません。古木が少ないだけでなく、剪定も影響していると思われます。

コウヤマキは裸子植物でコウヤマキ科コウヤマキ属の常緑針葉高木です。所属種は本種のみで 1 科 1 属 1 種になります。日本固有種で本州（福島県以西）、四国、九州などの山地（尾根筋など）にとびとびに自生し、大きいものは樹高 30m を越えるほどになります。

植えたものは、寺院、公園、学校などに見られます。成長は遅く、樹形は端正な円錐形になり、病害虫に強く手間のかからない樹木です。

葉は長さ 9～13 cm（平均約 11 cm）、幅 3～4 mm の針状葉で、輪生状に出た短枝の先につきます。短枝は極端に短く、葉が枝先に直接輪生しているように見えます。また葉の表面と裏面の中央に縦方向の溝があります。雌雄同株で、花期は 4 月、雄花は長さ 7 mm ほどのほぼ球形で、枝先に 20～30 個がかたまつてつき、長さ 4 cm ほどの集団（雄花序）になり、雌花は長さ 1.5 cm ほどの楕円形で枝先に 1～2 個つきます。こちらは小型の松かさのような感じです。

球果は翌年の秋に成熟し、長さ 8 cm ぐらいの松かさ状になります。球果と言っても雌しべの子房に由来する真の果実ではなく、松かさ状の各鱗片（種鱗という）の内側にそれぞれ 8 個ほどの種子がついたものです。多数の鱗片があるので種子は 100 個位つき、種子は卵形で周囲に狭い翼があり風散布されます。球果や種子の様子はマツによく似ています。



雄花序



雌花



秋の球果

(2)

〈トピックス〉

2月21日(火) (株)サンワ「美しいふるさと基金」様より、活動資金として10万円をご寄付いただきました。

〈活動報告〉

ぐんまの自然の「いま」を伝えるパネル展 1月21日(土)～2月12日(日) 県立自然史博物館
パネル(中村久和子さん作成)にて令和4年度の活動を報告しました。また令和5年度の「大人のための自然教室」の受講生募集チラシの配布も行いました。

他の団体の自然の調査報告と比べて地味な展示でしたが、一般の人にインプリ協会の活動を知って頂く良い機会になりました。(櫻井)



会員研修9「大室公園、冬の野鳥観察」 1月21日(土) 大室公園 会員研修部会

講師：粕川昭久、浅沼厚、水野博品、参加者：30名。寒風の中、大室公園にて野鳥観察会を実施しました。多数の会員参加で野鳥観察への関心度の高さを感じました。3班に分かれ「鳥調べチェックリスト」を使用して観察し、最後に3班合同で「鳥合わせ」をおこない合計40種ほどの野鳥を同定しました。(清水)



第7回写真展 3月1日(水)～5日(日) 吉岡町文化センター 自主写真クラブ

3年ぶりに写真展を開催しました。共通テーマ「雲」と自由課題合わせて約60点を展示し200名近い来場者が訪れて熱心に鑑賞されていました。(田中)

会員研修10「スノーシューでの自然観察会」 3月11日(土) 玉原高原 会員研修部会

講師：濱田誠、参加者：9名。

講師からスノーシューの装着や歩行方法を学んだ後、非日常体験的な雪上での自然観察を行いました。観察フィールドはブナ平から玉原湿原へとわたり、普段ではササの繁茂や、湿原内で歩くことができない所に入り込んでの観察会で大変充実していました。



(清水)

森林整備 高崎インプリの森 自主森林整備

1月28日(土) 参加者8名 ササ刈りとシラカシの間伐、ツル切り

2月18日(土) 参加者6名 シラカシの間伐とササ刈り

2月25日(土) 参加者8名 橋の架け替え・ササ刈り

3月4日(土) 参加者8名 道路際樹木伐採・ササ刈り
(酒井)



〈協会の声〉

大人のための自然教室を修了して

第20期生 西村 晴音

私にとって今年度は、いろいろやってみよう、行動してみようという1年でした。この教室に参加すること、資格を取ってみたい、動物の研究者の講演会に参加したり、新しいカメラを買い写真を撮ったり。とにかく充実した日々を過ごすことができました。そんな風に過ごし、「ああ世界って広いなあ」と漠然と思うと同時に、自分の考えや行動範囲も広がった気がします。

思い返すと、家族で山や博物館へ遊びに行ったり、自然に触れるイベントやクラブに参加していた幼少期、見るものすべてが新鮮で、綺麗で、疑問に思って、週末ワクワクしていました。大人になった暮らしに物足りなさを感じたとき、思い出するのはそのときのワクワクで、それが私の原動力とも言えるほど自分にとって価値のある体験だったことに気がきました。種名や生態、環境問題、それぞれ学ぶテーマがあるのはもちろんですが、それよりも上を見上げた時に見える綺麗な青空とそこに揺れる木々や足元の小さな虫など、その場でしか感じ取れない体験こそ自然に向き合っていこうと思うきっかけになるのだと思います。



知識や経験こそまだまだ未熟ではあるものの、好きだと感じてきたものの良さを素直に伝えていけるように学びを続け、自分もワクワクし続けていきたいと思えます。

想像を掻き立てられる倒木



私が「鳥」を意識して見始めたのは、大学入学時「野鳥研究会」なる鳥見のサークルに入会してからです。それまではスズメとカラス（ボソとブトの区別なく）ぐらいしか見分られませんでした。その後は鳥類図鑑巻末の鳥リストにチェックを入れ、確認できた種数（ライフリスト）を増やしていくのが楽しみとなり、仲間と丹沢・高尾山・軽井沢・谷津干潟、遠くは三宅島・鍋田干拓地（愛知県）・北海道などあちこちでかけ「場数」をこなしながら「鳥」を覚えていきました。当時は、双眼鏡・スコープ・カメラ・三脚等の装備も今ほど小型軽量化されておらず、移動手段も公共交通頼みだったためそれなりの体力も必要でした。

就職先が黒保根の山中にあったため、通勤途中また仕事の合間に労せずして四季折々の鳥の姿と声を見聞きするようになり、「鳥」は私にとって一層身近な存在となりました。その後「日本野鳥の会」に入会、支部の探鳥会にも顔を出すようになり、どこへ行けばどんな鳥がいるのかといった群馬のおおよその鳥相がみえてきました。職場が黒保根から吾妻（標高900メートル）に移ってからは、その上空域がツバメ・アマツバメ・ワシタカ類の秋の渡りルートの一部となっていることに気付き、昼休み時には双眼鏡を手に空を見上げていました。

鳥見を始めてから50年近くとなると老化による聴力の衰えもあり、姿が見づらい「夏鳥」より、見やすい「冬鳥」（特にガンカモ）に嗜好性が変わっています。太田頭首工・多々良沼・渡良瀬遊水地で見ますが、群馬は「海無し」県のため、海鳥を求め大洗・銚子へも足を伸ばします。そうはいつても、インタープリター協会員となつてからは「植物」にも目が向くようになり、姿が見づらい時期は植物観察が主となり鳥見は従に入れ替わっています。これからも外出時は双眼鏡（ひっくり返せば拡大鏡）を持ち歩き、いつでもどこでもバードウォッチングと植物観察を楽しんでいきます。



豆知識

雑草の話28 オオイヌノフグリ

理事長 関端 孝雄

かつて田園が広がっていた頃には在来のイヌノフグリが多数有つたと記憶しますが、現在見る機会がなくなっていました。小学校時代からの悪友がこのイヌノフグリが見たいと、もう何年も前に話しに来たのですが残念ながらその任をまだ果たせないでいます。（雄犬のそれならば直ぐ見られるものを）

オオイヌノフグリ（大犬の陰囊）は、明治時代にヨーロッパから渡来した外来植物で、現在は日本全土の空地や道ばたなどやや湿ったところに広がっています。オオバコ科で高さ10~20cmの越年草です。秋に種子が発芽して冬に葉を伸ばし早春には青い花を広げます。そして、実をつけると春の終わり頃に一生を終了します。広い空き地に咲く多くの青い花々はまるで絨毯のようです（図1）。イヌノフグリの実は丸く全体の形は犬の陰囊によく似ていますが、オオイヌノフグリの方は実（図5）が尖っているのです、袋の形は陰囊とはやや異なるように思えます。

茎はまばらに毛が生えていて、下方で枝分かかれし横に広がって、上方で立ち上がります。茎の上方に付く葉は互生、卵円形で両面にはまばらに毛が生えています。長さは1~2cmで、縁に大きな鈍い鋸歯があります（図2）。青色の花（図3）は長い花柄の先に着き、日が当たると開き、多くは1日で閉じます。がく片は4個で、大きさが径1cmの4深裂する花冠からなります。花卉には濃い青色の筋が沢山入っていて、僅かに大小の差があり下方の1枚が小柄で、左右対称の花です。花の真ん中に1本の雌しべがあり、それを挟むように花糸の曲がった2本の雄しべがある虫媒花です。日照時間が短くて虫の訪問が間に合わないとは仕方なく（？）自家受粉をして実を付けます。実はさく果（図4）でやや平たいハート形をし、中に多数の種子を入れます。夏の間をずっと過ごす種子は長卵形で表面にしわが多く他の物にくっつきやすいので、土などに混ざり踏まれたりして運ばれます。



図1. 花々は青い絨毯のよう



図2. 大きな鈍い鋸歯



図3. 青色の花



図4. イヌノフグリの実と種子

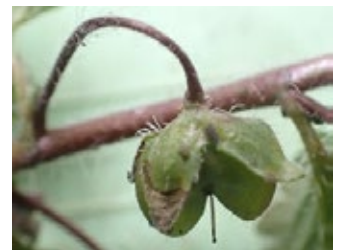


図5. オオイヌノフグリの実

(4)

やちょうのや ⑨

鳥はなんと鳴く？

第1期生 粕川 昭久

「鳩ぽっぽ」はどんな鳩？

日本の童謡のひとつ。文部省唱歌 1911 年(明治 44)の『鳩』の歌詞は「ぽっぽぽぽ、鳩ぽっぽ、豆がほしいか、そらやるぞ」と歌っています。ではこの鳩は何バトでしょうか。餌をあげるから「よっといで」と誘っています。お寺や広場での子供が餌をやる情景が歌から思い浮かびます。そうするとカワラバト(土鳩)と考えられます。しかしこのカワラバトはオスが「ググルグー・ググルグー」と威嚇鳴きをしたり。求愛は「クウクウー」と鳴く感じがします。鳥通の間では「ポッポと鳴くのはキジバトで、ドバトはこう鳴かない。この聞き做しは勘違いではないか」と言われたりしています。



デジデッポー♪と鳴くキジバト

「銭取り 銭取り」はどんな鳥？

「聞きなし」とは、鳥や動物の鳴き声を人の言葉や文字に置き換えて覚えやすくしたものです。鳥の声の感じ方に人それぞれ違いがあり意見が違います。例えばキジバトは「デデッポーポー」「出・鉄砲」「人にとって喰う」「トシヨリコイ」など数十の聞き做しがあり、地方や人、また時代によっての解釈が変わるからであります。カッコウのような「鳴き声からの命名の鳥」は国を超え、子供でも理解できます。私が先輩に教えられた「聞きなし」は、「鳥は自分の名前ではなく」と覚えればよいというものでした。いい例が「ルリビタキ」です。「ルリビタキだよ」と鳴いているというのです。鳥の声は聞きなさいとツルツル滑るツボを持つように掴み所がなく覚えられません。ホオジロの「ピピロツピイツピツピーツ」が「一筆啓上仕り候」で、メボソムシクイの「チョチョリー、チョチョリー」が「銭取り銭取り」なんていうのもあります。これは古色蒼然として今の高校生にはもう理解できない『聞きなし』です。



ルリビタキだよ♪と鳴くルリビタキ

では「土食って虫食って渋ーい」はなんの鳥の聞きなしでしょうか。身近な所に来る渡り鳥です。考えてみてください。

〈協会が実施する事業・研修会等〉

実施日	内容	会場
4月16日(日)	第21回通常総会	カネコ種苗ぐんまフラワーパーク
4月16日(日)	会員研修1 講演会「西毛地域の地質」	花と緑の学習館
4月23日(土)	会員研修2「春の自然観察会」	太田金山
4月29日(土)	敷島公園まつり 中止	敷島公園
4月30日(日)	会員研修3「妙義山の地質」	妙義山
5月7日(日)	会員研修4「赤城山自然体験メニュー研修」	赤城山覚満淵周辺
5月13日(土)	会員研修5「榛名山自然体験メニュー研修」	榛名山沼ノ原周辺
5月14日(日)	「大人のための自然教室」開講式	憩いの森・森林学習センター
5月21日(日)	連合ぐんまふれあいフェスティバル	楽歩堂前橋公園
5月27日(土)	自然観察会「春の花さがし」	県立観音山ファミリーパーク
6月24日(土)	自然観察会「わたしの木、みつけ！」	県立観音山ファミリーパーク
6月25日(土)	自然体験事業①「初夏の赤城大沼を一周しよう」	赤城大沼
4月22日(土)、5月13日(土)、27日(土) 6月3日(土)、24日(土)	森林整備	サンデンフォレスト(インプリの森・他)

〈編集後記〉皆さんが、心待ちに待っていた春です。美味しいものが沢山です。フキノとう、タラの芽、コシアブラ、ヤマウド、などなど。天ぷらにしたりお浸しにしたりと自然からの恵みに感謝です。(原田)